

**2009年度第3四半期 連結業績 国内機関投資家・アナリスト向けテレカンファレンスQ&A
(要旨)**

日時：2010年2月12日 16:00～16:50

回答者：藤方 ソニーフィナンシャルホールディングス 代表取締役副社長

小泉 ソニー生命 取締役

福本 ソニー損保 執行役員

中村 ソニー銀行 取締役兼 CFO

※内容については、理解し易いよう部分的に加筆・修正しております。

カンファレンスの中で、「ソニー生命の市場整合的エンベディッド・バリュー(MCEV)を構成する既契約価値の試算結果について」の説明を行いました。

【ご説明の内容】

ソニー生命の2009年3月末のMCEVに対する、金利変動の影響に関するご質問が多いことから、2009年12月末の市場金利を用いて2009年3月末の既契約価値を試算した結果をお伝えします。

- －既契約価値について、その構成要素である確実性等価利益現価とオプションと保証の時間価値部分の変動試算を行いました。2009年3月末の保有契約に対して、計算前提のうちスワップ金利だけを2009年12月末の金利に変更し試算した結果、既契約価値の当該部分は2009年3月末から約1,760億円増加となりました。
- －既契約価値の残りの構成要素であるフリクショナルコストとヘッジ不能リスクに係る費用については、試算を行っていません。

なお、MCEVの残りの構成要素である2009年12月末の修正純資産は、超長期金利を中心に金利が上昇したため、満期保有目的で保有している超長期債券の含み益が含み損に転じたものの、主に株価の上昇により2009年3月末から約250億円の増加となりました。

上記の試算は、時間経過とともに保有契約の商品構成や市場金利以外の計算前提について変化が生じていることを考慮しておりません。また、試算の妥当性については第三者の検証は受けておりません。

【Q&A】

Q1. 既契約価値(の構成要素である確実性等価利益現価とオプションと保証の時間価値部分)の変動の試算結果について聞きたい。(2009年3月末の保有契約に対して)2009年9月末の試算では約1,400億円増加だったのに対し、2009年12月末の試算では約1,760億円増加となり、約360億円の差がある。金利スワップのフォワードレートが上昇している割に、既契約価値の増加幅が小さいという印象だが、イールド・カーブの動きから既契約価値の増減をどのように分析すればよいのか。既契約価値なので、債券のデュレーションの長期化は影響が無いと思うが、増減幅に影響を与える要因を教えてください。

A1. [生命]

(今回のガイダンスにおける既契約価値は)2009年3月末の保有契約に対してスワップ金利のみを変更して試算した結果である。次に(2010年3月末の)MCEVを開示する時は、資産や負債の構成が変化しているし、前提条件の見直しもある。したがって、(既契約価値の増減に影響を与える)特定の要因は答えにくい。

Q2. EU のソルベンシーII の QIS4 に基づいた 2009 年3月末の計算結果では、ソニー生命においてマイナスのフリー・サープラスが発生していた。2009 年 12 月末における既契約価値や修正純資産の試算結果の改善や、債券のデュレーションの長期化の状況を考慮すると、QIS4 を適用しても、フリー・サープラスのマイナスは解消していると考えてよいか？

A2. [生命]

現時点で正確な計算を行っていないので確実なことは申しあげられないが、解消していると認識している。

Q3. 新契約価値のセンシティブリティについて、どの年限の金利を重視すればよいか教えてほしい。また、商品ミックスが 2009 年3月末から変化し、医療保険の構成比が上がる一方、(保険料が割安な優良体・非喫煙者割引特則による)家族収入保険の構成比も上がっていると思うが、金利条件を同じと仮定した場合に、2009 年 12 月末の新契約価値に与える影響を教えてほしい。

A3. [生命]

新契約の商品構成にもよるが、既契約のデュレーションで 30~40 年という説明をしており、新契約価値部分はさらにデュレーションが長いので、長い年限を重視していただければと思うが、具体的な数字を持っていないためお答えできない。

商品ミックスの変化が新契約価値に与える影響については、商品ごとの収益性を開示していないため、申し訳ないがお答えできない。

Q4. (保険料が割安な優良体・非喫煙者割引特則による)家族収入保険の販売が好調だが、既契約の一部からの買い替えが生じているようにも見える。保有契約価値の観点から、このような商品施策が好ましいのかどうか、会社としての考え方を教えてほしい。

A4. [生命]

競合他社や市場、お客さまの動向などを考慮しながら商品開発を行っている。今回の家族収入保険は、健康状態の良いお客さまに対してより合理的な商品を提供していこうという考えから発売を決定した。MCEV に対する影響については、既契約が解約された分はマイナスになるが、それを上回る新契約件数を獲得できれば、結果として MCEV にはプラスになると考えている。

Q5. 損害保険の当第3四半期(9ヶ月累計)における損害率の(前年同期比)上昇の理由を教えてください。また、今後の見通しにおいて上昇を想定する理由も同じと考えてよいか？

A5. [損保]

対物・車両保険での事故率および保険金単価の上昇が、(前年同期に比べて当四半期の)損害率の上昇に影響した。対人賠償の事故の件数も増加している。今後については、同じ理由で損害率の上昇を見込んでいる。

以 上